

静岡県浜松市

支援分野：オープンデータ、人材
(DX推進のための機運の醸成)
等

派遣対応年度：令和5年度

地域情報化アドバイザー名：市川博之 氏

派遣回数：計3回（オンライン1回・実地2回）

支援形態：講演

基礎情報

- 人口：784,941名（令和6年11月現在）
- 面積：1558.11平方キロメートル
- 主な産業：製造業



優良事業概要

● 事業名 オープンデータ利活用推進事業

● 事業の概要

オープンデータを活用し、地域課題の解決や地域の活性化、「市民目線」の行政サービスの提供といった「シビックテック」の普及啓発を図るため、市民活動団体や学生の集まりなどへ外部講師を派遣してセミナーを開催し、オープンデータ活用人材の育成に取り組みました。

● アドバイザーへの依頼内容

国や県、浜松市が公開しているさまざまなオープンデータを比較・分析することを通して、参加者がデータ分析手法の有用性を理解するとともに、シビックテックの醸成につながるようなセミナー・ワークショップの実施をお願いしました。

また、今回は参加対象者を高校生（浜松聖星高等学校2年生の生徒）に設定したことから、可能な限り平易で分かりやすい内容としていただきたい旨も合わせて要望させていただきました。

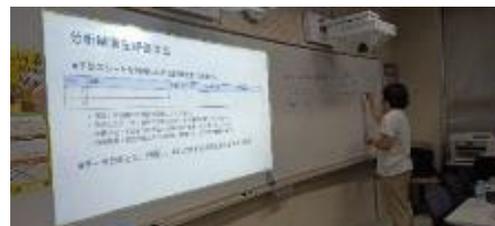
地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

高校生向けのデータ分析・利活用セミナーを実施いただきました。

事前打ち合わせの際には、本来、専門的な内容を長時間かけて学習する必要があるデータ分析手法について、高校生でも概要が理解できる内容になるようなご提案・アドバイスをいただきました。

セミナーにおいては「データ分析で見通す将来」というキャッチーかつ高校生が主体的に考えられるテーマに基づき、オープンデータやデータ分析手法について要点を押さえてご説明いただきました。これにより、受講した高校生たちは自身の将来に関する不安がデータ分析によってクリアになっていく過程を体験し、データ分析手法の有用性について理解を深めました。

今後、本事業の主旨であるオープンデータ活用人材の育成をさらに推し進めていく上で、特に若年層に対する効果的なアプローチの仕方という点で大いに参考になりました。



支援を受けた事業の最新状況

本事業の最終的な目的は、広く市民にオープンデータ・データ分析の有効性が認知され、それらの事例が継続的に生み出されるとともに、それが新たなオープンデータの創出につながるような状態を目指すことにあります。これらは一朝一夕で実現できるものではないことから、引き続きデータ利活用を推進するための取り組みを継続して実施しております。

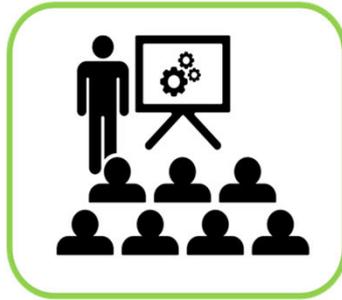
浜松市オープンデータ利活用推進事業の取り組み

オープンデータ化の促進



浜松市の市政情報を
オープンデータ化

オープンデータ利活用推進事業



外部講師によるオープンデータ
利活用セミナーを開催

シビックテックの醸成



オープンデータ活用人材の育成、
地域課題の解決に資するアイ
デアの創出につなげる

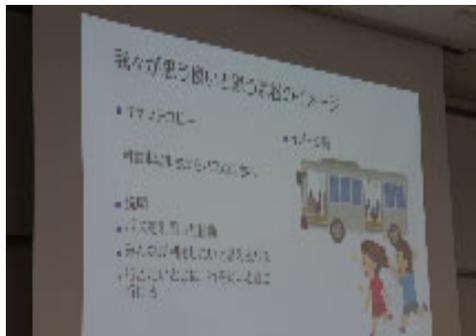
今年度の実施実績としては、地元大学である静岡大学との共催で、「ウェルビーイング」をテーマとしたオープンデータ利活用イベントを開催しました。参加した大学生は自身の大学生活をより良くするためのアイデアを出し合い、さらにそれらのアイデアの妥当性・実現可能性をデータを用いて検証することで、データ分析・利活用の有用性について学びました。

また、東京大学の主催するアイデアコンテスト「チャレンジ・オープンガバナンス2024」にエントリーし、本市の抱える地域課題について問題提起したところ、ここでも静岡大学が課題解決に向けたアイデア創出に向けて名乗りを上げてくれるなど、相互に連携しながらデータ利活用の推進に向けた取り組みを模索しております。

静岡大学アイデアソン・データソン2024の様子



グループワーク



アイデア発表



表彰式

地域情報化アドバイザー派遣制度を知るきっかけ

今回ご支援いただいた市川博之氏からご紹介をいただきました。また、本市では過去にも本制度を活用して市職員に向けたオープンデータ利活用のための相談会を実施（その際は別のアドバイザーに依頼）しており、参加者からの評判が非常に良かったことから、再度支援を依頼させていただきました。

支援を受けた事業が成果につながった要因

アドバイザーをお願いした市川氏によるきめ細かな支援が成果につながった主たる要因であると思案します。前述の通り、受講者が高校生ということに加えて、授業の一環として限られた時間の中で講義していただくこととなったため、「データ分析手法」という専門性の高い案件を扱っていただく上ではかなり難しい条件下での依頼となってしまいましたが、事前打ち合わせの際に高校側で導入しているソフトウェアやツール、生徒の習得しているスキル等についてご確認をいただき、それに合わせたテーマや事前課題を設定していただきました。

セミナーにおいては、高校生にとって比較的身近な「マイクロソフト・エクセル」を用いて統計資料の見方や各種のグラフの特徴、それらを用いたデータの分析の事例について分かりやすくご説明いただきました。受講者は事前課題において各々が立てた「仮説」をエクセルの表やグラフ等で見える化し、その分析結果を発表し合うとともに、講義の最後には時間の許す限り市川氏から発表内容に関するアドバイスとフィードバックをいただきました。参加者はデータ分析手法の有用性について理解を深め、また、エクセルのような身近なツールを用いた方法を学んだことにより、今後も課題解決の有効な手段としてデータ分析を実践してくれるようになったのではと期待しております。

以上のように、今回の市川氏による支援が本事業の趣旨であるシビックテックの醸成とオープンデータ活用人材の育成に大きく寄与していただけたものと考えます。

支援をしたアドバイザーが考える成果の要因

地域の学生が地域に価値を返すことを含めた損得関係ない愛情と、やりたいと思わせる信頼関係。デジタルなどは、その次のことで、信無きものに、若者が心を通わせるべきすべはなし。

地域情報化アドバイザー制度に関する評価・感想

参加した高校生からは、「データ分析と聞いて難しそうだと思ったが、実際にやってみると簡単で面白かった」「今回学んだデータ分析の方法を使って、自分なりに将来の夢についてもっと考えてみたいと思った」といった感想が寄せられました。また、これまでもデータ活用に関する市民・学生参加型のイベント開催の折に本制度を利用させていただき、いずれも参加者から非常に好評を博していることから、今後も本制度の継続を希望します。

浜松市のこれまでのデータ活用に関する市民・学生参加型イベント



令和3年度
高校生向けデータ利活用ワークショップ



令和5年度
高校生向けデータ利活用セミナー(本件)



令和6年度
大学生向け出前講座